

海外招聘公演
新国立劇場 『ガラスの動物園』
〈フランス語上演／日本語及び英語バリアフリー字幕付〉

イヴォ・ヴァン・ホーヴェ演出、イザベル・ユペール主演！
フランス国立オデオン劇場が、新国立劇場へやって来る。



公演写真提供:国立オデオン劇場 ©Jan Versweyveld

【スタッフ】
作 テネシー・ウィリアムズ
演出 イヴォ・ヴァン・ホーヴェ
制作 国立オデオン劇場
芸術監督 小川絵梨子
主催 新国立劇場

【キャスト】
イザベル・ユペール
ジュスティーン・バシュレ
シジル・ゲイユ
アントワヌ・レナル

8月6日（土）10:00～ 一般発売 新国立劇場ボックスオフィス 03-5352-9999

写真・資料のご請求、取材のお問い合わせ
新国立劇場 制作部演劇 広報担当 関
TEL: 03-5352-5738 FAX: 03-5352-5737
〒151-0071 東京都渋谷区本町1-1-1

25th ANNIVERSARY 新国立劇場
NEW NATIONAL THEATRE TOKYO

作品について

フランス、パリの国立オデオン劇場の協力のもと、2020年3月にオデオン劇場制作によりワールドプレミアを迎えたテネシー・ウィリアムズの代表作『ガラスの動物園』を招聘し日本初演します。2020/2021シーズンの開幕作品として上演を予定しておりました本作は、コロナ禍の中、本国フランスにおいても公演5日目にして閉幕、来日も叶いませんでした。21年秋に予定しておりました延期公演も感染症の影響による日本への入国制限などにより、残念ながら再び中止となってしまいました。この度2022/2023シーズンの開幕作品として上演いたします。

主演のアマンダ役にはフランスを代表する女優であり、映画、舞台と幅広く活躍するイザベル・ユペール、演出には、話題作を次々と発表し、今最も世界が注目する演出家、イヴォ・ヴァン・ホーヴェがあたります。

あらすじ

この戯曲は「追憶の劇」である。
舞台は不況時代のセントルイスの裏町。メインキャラクターはアマンダ、彼女の娘のローラ、息子のトムの3人。生活に疲れながらも昔の夢を追い、儚い幸せを夢見る母親アマンダは未だに自分のことを箱入りの南部婦人だと思っている。靴工場で働くトムは家族を養いながら夢である詩人を志し、隙を見つけては映画に通う。彼の姉ローラは病的なほどに自意識過剰である。彼女はアパートから一步も出ずに、自身のコレクションである小さく繊細なガラス細工の動物たちを来る日も来る日も磨き続ける……。この家にはそれぞれに別の幸せな人生を夢見る3人の孤独な者たちが一緒に閉じ込められている。しかしそんな日々も、彼らの夢が叶うかに思えたある晩までのことだった。ごく普通の青年でトムの友人でもあるジム・オコナーを、アマンダは「婿候補」と勘違いし、彼がローラにプロポーズする姿まで夢想してしまう。当然のごとく、彼女の計画は新たな、あるいは最後の幻想となる……。

スタッフプロフィール

作：テネシー・ウィリアムズ (Tennessee WILLIAMS)

アメリカの劇作家(1911年-83年)。ミシシッピ州コロンバスに生まれ、不況時代のセントルイスで複雑な家庭環境のもと青春時代を過ごす。各地を放浪しながら創作をしていたが、39年に4つの一幕劇でシアター・ギルド賞を受賞。44年自伝的作品『ガラスの動物園』がブロードウェイで上演された第一作。この成功に続く47年の『欲望という名の電車』、55年の『やけたトタン屋根の上の猫』で2度のピューリッツァー賞を受賞し、劇作家としての地位を確固たるものにしたが、その名声の裏で、生涯背負い続けた孤独と葛藤から私生活は荒れていった。83年ニューヨークのホテルの一室にて事故死。享年71歳。

演出：イヴォ・ヴァン・ホーヴェ (Ivo van HOVE)

2001年よりインターナショナル・シアター・アムステルダムの芸術監督を務めている。自身の演出作品(『Germs』、『Rumours』)により、1981年に演出家としてのキャリアをスタートさせた。90年から00年の間、Het Zuidelijk Toneel 劇団の監督を務める。98年から04年には、オランダ・フェスティバルの監督を務め、国際的な演劇作品、音楽、歌劇、およびダンスを毎年上演した。また10年まで、アントワープの劇場芸術部門の芸術的指導者を務めた。14年にパリ・オデオン劇場で上演したアーサー・ミラー作『橋からの眺め』は、15年ロンドンのヤング・ヴィックにも招かれて絶賛され、ローレンス・オリヴィエ賞・最優秀演出賞を受賞。その後、NYリンカーン・センターでも上演されてブロードウェイ・デビューを飾り、第70回トニー賞・演劇演出賞を受賞した。続いて16年3月より同じくミラー作『るつぼ』(音楽：フィリップ・グラス)を演出し、同じくトニー賞の再演演劇作品賞、主演女優賞など4部門候補となるなど、話題作を連発している。

公演概要

新国立劇場 2022/2023シーズン 演劇

【タイトル】 **ガラスの動物園**

【スタッフ】
作 テネシー・ウィリアムズ
演出 イヴォ・ヴァン・ホーヴェ

フランス語翻訳 イザベル・ファンション
ドラマトウルグ クーン・タチュレット
美術・照明 ヤン・ヴェーゼイヴェルト
衣裳 アン・ダーヒース
音響・音楽 ジョルジュ・ドー
演出助手 マチュー・ダンドロ
制作 国立オデオン劇場

芸術監督 小川絵梨子
主催 新国立劇場

後援：在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本

【キャスト】

イザベル・ユペール
ジュスティーン・バシュレ
シリル・ゲイユ
アントワーヌ・レナール

【会場】 新国立劇場 中劇場（京王新線 新宿駅より1駅、「初台駅」中央口直結）

【公演日程】 2022年9月28日（水）～10月2日（日）

【料金（税込）】 S席11,000円 A席7,700円 B席4,400円

【一般発売】 8月6日（土）10:00～

※通常の座席配置での販売を予定しております。

【チケット申し込み・お問い合わせ】

新国立劇場ボックスオフィス TEL：03-5352-9999（10:00～18:00）

新国立劇場Webボックスオフィス <http://pia.jp/nntt/>

☆本公演は新型コロナウイルス感染予防、拡散防止対策をとって上演いたします。

詳細：https://www.nntt.jac.go.jp/release/detail/23_017576.html

☆『ガラスの動物園』では全公演に日本語及び英語バリアフリー字幕が舞台上スクリーンに表示されます。（バリアフリー字幕とは、台詞の他に音や音楽など耳から得る情報を文字にして提供する字幕です。）

9月30日（金）13:00公演および10月2日（日）13:00公演では視覚障がいの方へのサポートがございません。（定員制、先着順、要予約）

詳細：https://www.nntt.jac.go.jp/play/news/detail/13_023579.html

* **Z席1,650円** Z席（各日12席）は、公演当日朝10:00から、新国立劇場Webボックスオフィスおよびセブン-イレブンの端末操作により全席先着販売いたします。※先着販売後、残席がある場合は、公演当日の開演2時間前からボックスオフィス窓口でも販売いたします。※電話予約不可。* **当日学生割引** 公演当日残席がある場合、Z席を除く全ての席種について50%割引にて販売。要学生証。電話予約不可。* 新国立劇場では、高齢者割引（65歳以上5%）、障害者割引（20%）、学生割引（5%）、ジュニア割引（中学生以下20%）など各種の割引サービスをご用意しています。